

業績拡大で社会貢献

飯田ウッドワークシステム株式会社 代表取締役 飯田 信男



道職員として、林産試験場と道庁に10年、その後民間企業に10年務め、平成12年に会社設立以来、11年が経過しました。地域の林業と雇用の確保を基本スタンスに、木とアルミの複合カーテンウォールや木製サッシのメーカーとして事業を展開しています。

主要マーケットが北海道であることから断熱には力を入れていますが、首都圏でも省エネ志向が高まってきたので、北海道で培った断熱技術を活かせるのではないかと考え、一昨年末に東京都桧原村で新工場の建築をはじめ、昨年5月に完成、6月に操業を開始しました。旭川工場について、2つ目の工場です。工員は、地元の方が3人に旭川工場から1人を派遣し、4人体制です。

5～6年前から道外への展開を狙っており、道外で建築家向けのセミナーを開催し、コネクションを作ってきました。当初から東京での工場設立を狙ってきたわけではありませんが、仲間からの誘いがあり、自然と東京都桧原村での設立につながりました。



新工場（東京都桧原村）

桧原村の状況は、『多少手が入っていない本州の山』で、また、都心から1～2時間の距離でありながら、

『雇用の場のない山村』といった感じでもありました。桧原村に工場を作り、地元のスギに北海道の省エネ技術を組み合わせ高品質の窓をつくることは、地域の林業・林産業の振興や雇用の場、住宅の省エネルギー化などで、社会の役に立つことができると考えています。特に、桧原村のスギを原料に、首都圏へ供給することは、流域内で完結しており、川上と川下が協力し合う良いカタチだと思っています。

東京工場はショールーム機能と加工機能、研究機能を備えています。工場の建物自体が一つのショールームとなっていて、断熱性能を体感できます。当地は、昨年の夏は気温が35℃くらいまで上がりましたが、工場内では28℃までしか上がりませんでした。窓を開け放して通風を良くするよりも、締め切って外気を入れないほうが涼しいということで、作業中も窓を閉め切っています。夏に都庁の方が見学に来られ、断熱性能に興味を示されていました。

加工は、製材を生で仕入れ、乾燥から行っています。進出してから分かったことですが、北海道は、断熱技術だけでなく、加工技術でも数段進んでいます。当初は地元の製材工場から乾燥製材を仕入れていましたが、品質が安定しなかったため、今は自社で乾燥を行っています。

東京での受注が増えてきたら、加工は周辺の工場に外注する計画です。そのため、工員には『研究者の視点』を持つように指導しており、研究課題を与えています。工場内にセンサーも配置し、各種データも収集しています。

木製サッシを通して、生産地と消費地の橋渡し、地域経済の活性化、地域の林産業の生産技術の向上、建築物の省エネルギー化に貢献できれば幸いです。

木製窓サッシ工場。木とアルミの複合サッシに強み。本社は札幌市、旭川市と東京都桧原村に工場。
<http://www.iimado.com/>